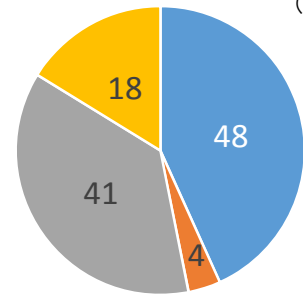


## 専門職大学院についてのアンケート調査（平成30年12月実施）

（アンケート対象：平成30年度国際地域学部2，3年次生124人，うち回答数111人）

1 このような専門職大学院への進学についてどう考えますか。

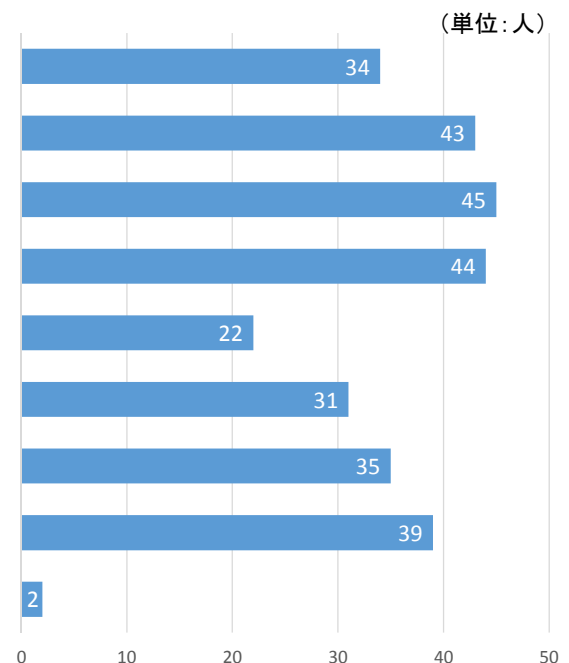
- (1) 選択肢の一つとして考えたい
- (2) いったん就職した後に、改めて社会人としての入学を希望する
- (3) 希望しない
- (4) わからない



2 もし、この専門職大学院で学ぶとすれば、どのような力量や知識を身につけることを望みますか。

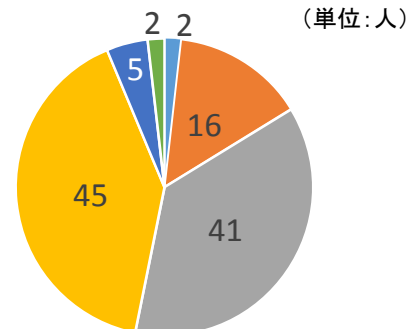
以下の選択肢から選んで回答してください(3つ以内)。

- (1) 様々な国・地域における社会・経済の事情を理解する
- (2) 事業を運営していくうえで必要なマネジメントに関わる知識を得る
- (3) 事業の企画に必要な発想力・デザイン能力を身につける
- (4) 海外で事業活動を展開する際に必要な知識、および交渉力・行動力を身につける
- (5) 国内および国外におけるマーケットの開拓に必要な知識を身につける
- (6) 移民問題やインバウンド対策、少子高齢化などこれから地域にとって政策的に必要となる課題に関する知識を得る
- (7) 日常的に外国人や外国企業などとの取引や交渉をスムーズに行う力を身につける
- (8) 高度な英語能力、ビジネスを含む実用的な英語能力を身につける
- (9) その他



3 この大学院の授業は、社会人が働きながら通えるように、基本的に平日の夜間、土曜、休業期間中に行われますが、あなたはどのようなライフスタイルを想定しますか。

- (0) 無回答
- (1) 日中は、学部の未履修科目を履修したり、他の学校等に通ったりするなど、自学に努める
- (2) 日中は、アルバイトなど時間的に融通の利く職に就く
- (3) 大学院と就職を両立できるような就職先を探す
- (4) その他
- (複数回答)(1), (2)



( 白 紙 ペ ー ジ )

### 専門職大学院に関するアンケート調査

現在、福井大学国際地域学部では、地域の企業や自治体等がグローバル化に対応した事業戦略を構築する際に必要となる人材を養成することを目標とする専門職大学院（現役の社会人とともに、事業活動に関する実務や実務に必要な学問分野を実践的に学ぶ修士課程（学位は専門修士））を、2020 年度 4 月の設立予定で構想中です。

具体的には、在学する 2 年間の間に、

- ①経営戦略やマーケティング、ファイナンス・会計などのグローバルな事業活動に必要な分野や、国際関係や海外事情、および地域の活性化や観光などに関する分野の実践的な課題に即した学習に取り組みます。
- ②語学力を含む交渉能力や事業企画能力の育成をはかります。
- ③企業・県等の海外事業所で短期（10 日程度）、および長期（1 か月）の業務体験や現地でのヒアリング調査などを行う実地研修に取り組みます。さらに、JICA、ユネスコでの海外研修も可能としています。（開講予定科目は、裏面の【参考】をご覧ください。）  
授業は、①については主に土曜日の午前・午後、および休業期間中の集中で、また②については平日の夜間に開講されます。

また、費用は、所定の学費（入学金と授業料）に加えて③の実地研修時の旅費その他の経費となります（旅費その他の経費に対する一部支援は別途検討中です）。

この専門職大学院は社会人（企業の従業員や自治体職員等）を主たる対象として設置されるので、学部からの進学者の募集は若干名となる見通しですが、事業活動に関連した知識を実践的に学ぶとともに、実務に詳しい社会人と共に議論しながら学ぶ場ですので、グローバルに活躍するための力量やマネジメントに必要な知識を十分につけてから社会に出たいという学生に適した進路です。

正式に設置が決まるのは、順調に行けば来年度の夏以降になりますが、このような大学院が設置されることについて、あなたのお考えを伺います。当てはまる数字に○をつけてください。

1. このような専門職大学院への進学についてどう考えますか。

- ①選択肢の一つとして考えたい
- ③いったん就職した後に、改めて社会人としての入学を希望する
- ④希望しない
- ⑤わからない

(裏面に続く)

2. もし、この専門職大学院で学ぶとすれば、どのような力量や知識を身につけることを望みますか。以下の選択肢から選んで回答してください（3つ以内）。

- ①様々な国・地域における社会・経済の事情を理解する
  - ②事業を運営していくうえで必要なマネジメントに関わる知識を得る
  - ③事業の企画に必要な発想力・デザイン能力を身につける
  - ④海外で事業活動を展開する際に必要な知識、および交渉力・行動力を身につける
  - ⑤国内および国外におけるマーケットの開拓に必要な知識を身につける
  - ⑥移民問題やインバウンド対策、少子高齢化などこれから地域にとって政策的に必要なとなる課題に関する知識を得る
  - ⑦日常的に外国人や外国企業などとの取引や交渉をスムーズに行う力を身につける
  - ⑧高度な英語能力、ビジネスを含む実用的な英語能力を身につける
  - ⑨その他
- ( )

3. この大学院の授業は、社会人が働きながら通えるように、基本的に平日の夜間、土曜、休業期間中に行われますが、あなたはどのようなライフスタイルを想定しますか。

- ①日中は、学部の未履修科目を履修したり、他の学校等に通ったりするなど、自学に努める
  - ②日中は、アルバイトなど時間的に融通の利く職に就く
  - ③大学院と就職を両立できるような就職先を探す
  - ④その他
- ( )

以上です。ありがとうございました。

**【参考】** 専門職大学院で開講予定の授業科目（変更あり）

海外事情研究Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、国際交渉研究、経営戦略論、マーケティング論、データ分析手法、事業デザイン論、ビジネス交渉とリーダーシップ、企業財務・会計・データ分析、国際ビジネスと法・リスク管理、観光マネジメント論、まちづくりマネジメント論、地域経済研究、移民問題、英語（Communication、Reading/Writing、Intercultural Communication、Professional Speechcraft、Professional Text Analysis、Advanced Writing）、中国語（基礎・コミュニケーション・実用）  
新事業創造ワークショップ、海外実地研修A・B・C、最終報告

## 地域企業・自治体の課題

### 県内企業海外進出状況

区分	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
総海外拠点数	309 ヶ所	331 ヶ所	321 ヶ所	358 ヶ所	366 ヶ所
アジア拠点数	259 ヶ所	281 ヶ所	271 ヶ所	309 ヶ所	318 ヶ所

(福井県産業労働部国際経済課作成資料から引用)

### 外国人住民者数

年月	2013年12月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月
外国人 住民者数	11,160 人	11,335 人	11,965 人	12,188 人	13,426 人

(福井県産業労働部国際経済課作成資料から引用)

( 白 紙 ペ ー ジ )

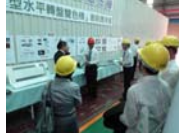
## 福井県地域グローバル人材育成事業

### ◆プログラム内容

#### 実践型海外留学（国外）

##### ＜留学先＞

・支援企業が提供する海外留学プログラム（下記3コースのいずれかに該当）を基に海外インターンシップや海外展示会の見学等を実施  
（語学留学のみは不可）



海外拠点でのインターンシップ等

＜期間＞ 28日以上2年以内

＜実施時期＞ 平成30年4月～10月留学開始

#### 県内企業でのインターンシップ（国内）

＜実施企業＞ 支援企業を中心とした県内企業でのインターンシップ

＜期間＞ 海外留学の前後の期間において、事前事後合計20日間以上実施

＜実施時期＞ 平成30年2月～

※ このほか、県内でのオリエンテーションや報告会、日本代表プログラムの事前・事後研修等への参加があります。

### ◆留学コース

#### 国際マーケティングコース

##### （市場・販路開拓）

○本県の輸出額の大半を占める中国・東南アジアを中心に、企業就職後、海外営業の分野等において活躍する人材に育つよう、現地の文化や商習慣、市場性や顧客のニーズを理解するとともに、新市場や販路の開拓に求められる、語学を含めた知識や経験、人脈構築に役立つことを目的としたコース

#### 海外生産マネジメントコース

##### （生産管理・人材育成）

○国内のみならず中国・東南アジアを中心に、企業就職後、現地での生産拠点の設置・運営、人材育成などのマネジメント分野において活躍する人材に育つよう、現地の文化や商習慣、電力・交通網等の現地インフラ事情や、工場の管理、コミュニケーション能力の理解・向上などに役立つことを目的としたコース

#### 未来ものづくり創造コース

##### （先端技術・商品開発）

○繊維や眼鏡など、ものづくり立県である本県の高い技術・創造能力のさらなる進展につなげるため、企業就職後、研究開発や商品開発の分野等において活躍する人材に育つよう、業種業態に拘らず、様々な分野における、最先端の知識・経験、専門性を高めることを目的としたコース

5

## 支援企業および提供可能なプログラム一覧（1/2）

①国際マーケティングコース（市場・販路開拓）

②海外生産マネジメントコース（生産管理・人材育成）

③未来ものづくり創造コース（先端技術・商品開発）

番号	企業名	業種	プログラム	プログラム内容	
				実践型留学	事前・事後インターンシップ
1	株アタゴ	繊維工業	②	海外拠点（中国）における就業体験（1週間程度）に語学研修を組み合わせたプログラムの提供が可能	【事前】 会社概要説明および工場見学と現場実習等 【事後】 業務体験（営業）と研修成果発表
2	セーレン㈱	繊維工業	②	海外生産拠点（アメリカ、中国、タイ等）における生産管理等の業務体験および語学研修を組み合わせたプログラムの提供が可能	【事前】 会社概要説明、事業所見学、現場研修等 【事後】 現場研修、研修成果まとめ、報告会
3	日華化学㈱	化学工業	①	アメリカ・中国・東南アジア（ベトナム・インドネシア）等の海外拠点でのパルチャーチェーン全般に係る就業体験および語学研修を組み合わせたプログラム提供が可能	【事前】 会社概要説明、本社および工場見学、現場研修等 【事後】 研修成果まとめ、報告会
4	日信化学工業(株)	化学工業	①	海外インターンシップへの参加および語学留学を組み合わせたプログラムの提供が可能	【事前】 研究所（福井）にて製品紹介、開発実習 【事後】 本社（福井）にて業務体験、成果報告
5	フクビ化学工業㈱	プラスチック製品製造業	①、②	①アメリカの取引企業におけるマーケティング等の業務体験や国際展示会等への参加を通じたニーズ調査を実施する海外インターンシップと短期語学研修との組み合わせたプログラムの提供が可能 ②ベトナム工場（アマタ工業団地）での生産管理等の業務体験や同工業団地に立地する日系企業や取引企業への見学プログラムの提供が可能	【事前】 本社での現場実習、県内工場見学等 【事後】 本社での業務体験（営業・技術・事務部門）、最終成果発表
6	井上商事(株)	鉄鋼・非鉄金属・金属製品製造業	①	ドイツを中心としたヨーロッパでの海外営業体験および語学留学を組み合わせたプログラムの提供が可能	【事前】 福井（本社・工場）での現場実習・工場見学並びにビジネスマナーの習得等 【事後】 本社での成果報告と支店・営業所での現場実習等
7	(株)日本エー・エム・シー	鉄鋼・非鉄金属・金属製品製造業	②	海外子会社（タイ・フィリピン）での職場体験（海外インターンシップ）および語学研修を組み合わせたプログラムの提供が可能	【事前】 会社ガイダンス、職場体験（製造・検査・物流部門） 【事後】 本社での成果報告と各部門における職場体験等
8	福井鉄螺㈱	鉄鋼・非鉄金属・金属製品製造業	②	海外拠点（タイ）での品質管理や生産管理等の業務体験（1か月）の提供が可能。	【事前】 技術教育部門での研修、工場見学等 【事後】 技術開発部門での現場実習

## 4. 「お互いプロジェクト」等を活用した本県企業の海外展開を支援し、成長するアジアの需要を取り込む

4-(1) 現状と課題

◎タイとの覚書に基づく「お互いプロジェクト」を活用するとともに、台湾、中国との経済協力関係を活かし、現地における本県企業の経済活動の支援を強化します。

◎バンコクビジネスサポートセンター、上海ビジネスサポートセンターを活用し、経済界・大学等と連携しながら、中国や台湾、および東南アジアにおける本県企業の販路拡大など、国際競争力の強化を図る海外展開を支援します。

【H32年の数値目標】

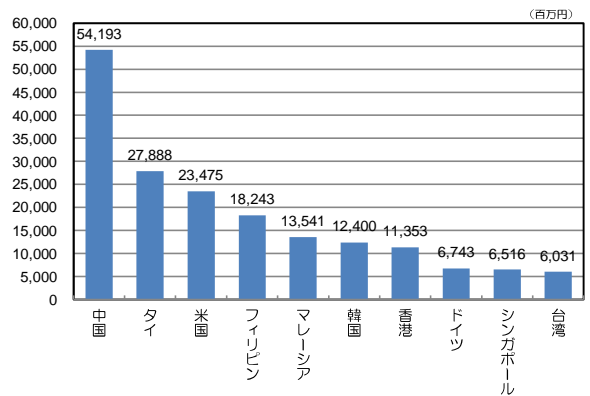
- ・アジア向け輸出額（H25：1,631億円）を年間2、300億円に引き上げる
- ・アジア進出企業の現地売上額を現在の1.5倍に引き上げる

※お互いプロジェクト…日本とタイの企業が連携し、お互いの産業補完を強化するためのプロジェクト

### (1) 現状と課題

○本県企業の海外展開は、設置拠点や輸出額などで中国、東南アジアで大半を占める。

【福井県企業の輸出額上位10か国・地域(H25年)】



【出典：福井県の貿易】

○海外需要獲得のために積極的にグローバルに展開する県内企業も多数ある。

【福井県企業の海外拠点数】(27年3月末、貿易促進機構調べ)

地域	製造拠点数	販売拠点数	拠点合計
アジア	112	173	285
中国	63	118	181
東南アジア	39	38	77
その他	10	17	27
中東	0	1	1
北米	11	14	25
ヨーロッパ	5	16	21
その他	2	2	4
合計	130	206	336

○H23年9月、ふくい貿易促進機構を設け、上海の支援拠点での機能を強化し、本県企業の海外展開を支援している。

さらに、東南アジア向け支援を強化するため、H26年11月、タイに支援拠点を開設した。

【相談件数】 3,792件(H23年9月～H27年3月末)

【相談内容の事例】

- <海外進出> 現地法人の設立手続、進出に向けた市場調査等
- <販路開拓> 現地商談会への出展、食品市場に関する情報提供等

20

(中略)

4-(2) 今後の施策の方向性

### (2) 今後の施策の方向性

ふくいバンコクビジネスサポートセンター(東南アジア)、ふくい上海ビジネスサポートセンター(中国、香港、台湾)を活用して、成長著しいアジアの需要を積極的に取り込みます。

県内企業の海外展開に向けたニーズを的確に把握し、県内産地主導への転換を図っている繊維、眼鏡の販路を拡大するとともに、日本酒や食品、伝産品など比較的規模の小さい商談も積極的に支援し、ビジネスチャンスの拡大につなげます。

#### ○富裕層・中間層に向けた販売を拡大する

【数値目標】

新たな現地バイヤーの発掘:年2社

H31年の外国人宿泊者数:中国・香港・台湾7万4千人

東南アジア3千人

※観光新戦略の基本目標に合わせ、平成31年の目標とする。

- ・繊維・眼鏡・地酒・食品・工芸品等の販売を拡大するため、現地バイヤーを発掘し、マッチングを強化する。特に、繊維や眼鏡で進めている、県内業界組合と連携した現地の業界団体や有力バイヤー等とのマッチングをさらに進め、機械等新たな分野にも展開する。
- ・消費者、現地バイヤー、現地旅行代理店などに向けた県産品や観光の総合プロモーションを開催する。
- ・台湾、タイ、シンガポールを中心に、旅行代理店向け商談会の開催、報奨旅行や教育旅行の働きかけ等により誘客活動を強化する。
- ・旅行商品の造成、現地旅行博への出展などで他県と連携し、本県への誘客を促進する。

#### ○本県企業・経済界・大学等のグローバル展開を促進する

【数値目標】

本県企業とタイ企業等との連携事業 H32までに5件  
新規輸出件数 年50件

(タイにおける展開支援)

- ・タイ政府関係者や企業等の招へいによる経済交流を促進し、本県企業とタイ企業との関係を強化する。
- ・「お互いプロジェクト」等を活用し、タイ工業省との連携による商談会等を開催し、本県企業とタイ企業との取引を強化する。



【台湾での商談会】



【タイでの物産展】

(後略)



## (2) 技術・ビジネスモデル革新に対応した人材育成

### 【現 状】

- I o TやA I等の情報通信分野における目覚ましい技術進歩が、従来の製造業や小売、サービス業などの業態に変化をもたらすことが見込まれる。
- グローバル化の進展により、県内企業の海外取引、海外事業の展開の機会が増えているが、多くの県内企業にとって費用や受入先の点で、研修の提供が困難である。

### 【課 題】

- これらの変化に対応し企業競争力を高めるため、情報通信分野の進歩に対応した人材の育成が必要である。
- グローバル化、I o TやA I等の技術革新に対応した人材の育成が必要である。
- 海外大学における国際的ビジネススキルの習得等、県内企業の海外展開に必要な国際人材を育成するための取組みが必要である。

### ねらい

- ・県内企業がI o TなどのI T技術を活用した生産や販売の仕組みを導入し、生産性向上や販売力強化等により競争力を高めるため、これらの技術革新を使いこなすことのできる人材の育成を図る。
- ・県内企業の海外展開や国際競争力の強化のため、外国語でのコミュニケーションやプレゼンテーション能力、異文化理解等に通じた人材の育成を図る。

### 施策の展開

- ◆I o T等を活用した自ら考える工場（スマート工場）の導入を支援するため、I o T活用に関するセミナーを実施
- ◆I T経営の専門家や大学等の研究機関などで構成するプロジェクトチームを県内企業へ派遣し、I T・I o Tの導入可能性を調査するとともに、導入事例紹介や導入方法を助言
- ◆ふくい産業支援センターにおいて、I o Tやビックデータ解析、ロボット等の最新I T技術を活用する研修を実施
- ◆介護、建設等人手不足分野におけるロボットの利活用を推進するため、労働環境改善や作業自動化に向けたロボットシステムの構想・設計・導入を担うロボット導入促進人材を養成
- ◆県内企業の若手幹部候補等に対し、本県と交流のあるフィンドレー市・大学において英語でのビジネスコミュニケーションやプレゼンテーション力を習得するための派遣研修を実施し、国際ビジネス力を強化し、海外で通用する人材を育成
- ◆長期海外留学生に対する支援等、福井県アジア人材基金によるアジアで活躍できる人材の育成

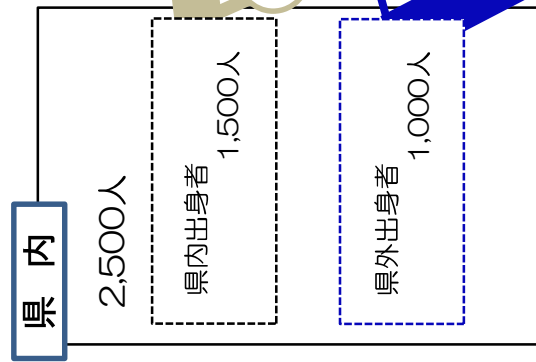
# 大学卒業時の若者流出が地方創生の課題

自立と分散で日本を変えるふるさと知事  
ネットワーク 第11回会合  
H30.1.22 [福井県]

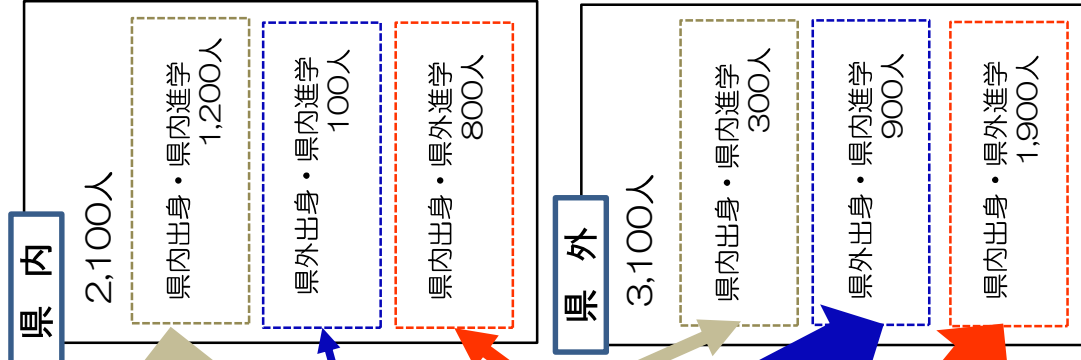
## (1) 多くの若者が大学卒業時に県外へ流出

### 福井県の現状 (概数)

< 大学進学時 >



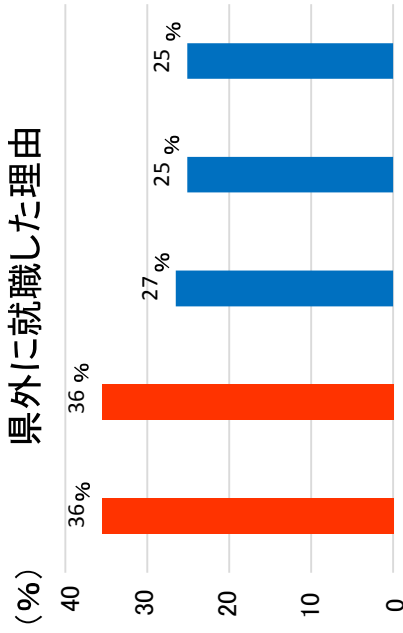
< 就職時 >



県外出身者の  
定着率1割

県内出身者の  
Uターン率3割

## (2) 多くの若者が県内で働くことに魅力を感じていない



都会が魅力的な産業なし  
大学の志望職種なし  
大企業希望なし  
県内外に在住する本県出身の20~30代の男女2500人に調査、回答数:765人  
(福井県による若者のUターン意向調査(平成26年度))

### 若者の県外流出を防ぐには

- ① 県内企業や県内で働く魅力を伝える
- ② 地場産業の魅力を高める
- ③ 地域独自の魅力を高める

ことが必要

大学の力を活用することが効果的